



2020年7月27日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 16号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

先週は比較的値動きのない静かな相場が続きました。日本は4連休でお休みムードでしたが、海外の為替相場が久しぶりにドル安の方向に振れて、円高、ポンド高が進みました。ドル円は105.68まで金曜日のNY相場をつけていました。今週日本市場が明けてきて、輸入サイドの円売りドル買いが入り、すぐに元のレンジに戻るかもしれませんが、ドル円も長らく107円前後で膠着状態だったので、輸入サイドの予約を取る人が多い方には少しチャンスかもしれません。

1. コートジボワール、新物の前売り契約分の割合減少を希望。相場低迷で(7/24)

カカオ豆の収穫数量の約80%をシーズン実際の収穫が始まる前にオークション制度を用いて前売り契約にて販売しているコートジボワールは、現在の低い価格を避けて、価格が上昇したときに交渉を利用して利益を上げることが望んでいると、国営の新聞Fraternite Matinが報告し、農業大臣のKobenan Kouassi Adjoumaniの意見を引用しています。「現在のマーケティングスキームではLe Conseil du Cafe-Cacao(=一般的にCCCと呼ばれるコーヒー&カカオ協会)が最も興味深い価格を選択できるようになっていない。」同国の20/21年産の新物カカオは、4月14日の段階で、前述の前売り契約方式で110万トンのココアを販売したとされている。

2. ガーナカカオ着荷数量は6月4日現在、742,725トンで前年を下回る(7/20)

ガーナの2019/2020シーズンのカカオの着荷数量は、身元は明かさなかったがその筋の情報に詳しい専門家によると、10月1日から始まった収穫分が、6月4日までガーナの港に運ばれた数量ベースで742,725トンとなったと述べた。このカカオ豆の数量は、業界規制当局であるガーナココアボードによってチェックを受け、品質の等級付けおよび麻袋のシールをされた正規品が対象の数値である。また、昨年同時期の5月30日までの同数量は776,418トンであったことから、前年より約3万トン少ない数量となっています。

3. ナイジェリアの6月のカカオ輸出は前年より3倍に(7/22)

ナイジェリアの6月のカカオ豆の輸出は、主要港湾都市のラゴスにある港湾検査および海運会社の代理店がまとめたデータによると、倉庫に停滞していた貨物が出荷された影響があり、前年比で3倍以上増加となった。

- 6月のカカオ豆の出荷量は、1年前の3,968トンから15,574トンに増加。
- 前月5月の輸出数量は11,626トンで今月は34%の増加。

- ヨーロッパ向けが最大で全体で12,105トン、内訳として7,665トンがオランダ、続いて2,275トンのベルギー、ドイツは1,055トンのカカオを輸入しました。残りはエストニアとスペイン向け。
- インドネシア向けは1,626トン、マレーシア向けは1,598トン、245トンは西アフリカのガーナ向け。
- 「内陸のカカオ生産地付近にある輸出業者が管理する倉庫に保管されていたカカオはCovid-19の影響で暫し停滞していたが、6月に入り州を跨ぐ人や貨物の移動が緩和された為、6月に多くの数量が出荷された」と現地のカカオ輸出企業は述べた。
- ココアバター輸出6月は628トンで、前年の1,251トンから50%減少。5月に出荷された158トンからは約3倍の上昇。
- カカオマスはオランダ向けで103トンの輸出、スペイン向けは102トンであった。受け取りました。

*ナイジェリアは、国際ココア機関による統計によると世界第5位のカカオ生産国である。チョコレート原料の世界最大の生産者の中で5位にランクされています。

4. 米ハーシー、4-6月期は減収減益 国外販売が不振(7/23)

菓子大手の米ハーシーが23日発表した4-6月期（第2四半期）決算は、減収減益となった。取引先の小売店が新型コロナウイルス流行の影響で発注を取り消したことが響いた。また、国外事業がコロナの影響を受けたことも販売数量の減少につながった。

売上は前年同期の17.7億ドルから3.5%の減少で17.1億ドルと大きな落ち込みとはならなかったが、純利益は2億6890万ドル、1株利益は1.29ドルと、前年同期（それぞれ3億1280万ドル、1.48ドル）から大きく減少した。調査会社のファクトセットがまとめた事前のアナリスト予想にも届かなかった。但し、2020年7-12月期については、売上高の伸びが改善するとの前向きな見通しを示した。一方、コロナによる先行き不透明感を理由に、20年12月期の業績予想を取り下げた。

5. ハーシー・インド、COVID時代の手作り需要でシロップ、スプレッド、ココアパウダーの売り上げが急増(7/26)

チョコレートメーカーのハーシー・インドは、パンデミックの期間中に家庭でのお菓子の手作り需要が高まったため、シロップ、スプレッド、ココアパウダーで構成される食料品ポートフォリオの売上高が急増していると報告。インドを重点市場と見ている同社は、過去3年間にポートフォリオの変革に取り組んでおり、今後も成長の機会を模索している。

「6月のハーシーの食料品ポートフォリオ（シロップ、スプレッド、ココアパウダー）の売上高は、今年の第1四半期の月間平均に対してほぼ倍になり、売り上げが急増しました」

「したがって、ロックダウンの間、家族と一緒に時間を費やしており、自宅で料理をしており、最近の消費者の傾向はまた、家庭でのベーキングや料理のレシピを探している人々が大幅に急増していることを示しています」さらに、同社は、COVID-19の期間中にeコマースの機能を強化してきた。これは、同社の重点分野であり、SwiggyやDunzoなどのいくつかの食品配送アプリと提携して、消費者の玄関先まで製品を配送している。パンデミックの期間中、同社は、既存のスーパーやキヨスクショップへの来店頻度が減少するにつれて、人々がよりeコマースから多く購入するの行動変化がありました。消費者がキッチンでより多くの時間を費やしているため、食料雑貨品の使用の頻度や範囲が拡大しているとのこと。

ただし、また、一方で、消費者は支出に慎重であり、より価値に基づく商品を求めるようになっている。商品を知ってもらうためにお試し用の小さなパックも必要だが、一度購入していただいたお客様には、以前より家庭で沢山の量を使うようになったので、お徳用の大きな容量サイズの商品も必要であり、顧客のニーズは行動変容と共に複雑化しています。

「ハーシーカンパニーにとって、インドは国際市場で最も重要な焦点の1つで、今後、長期的には私たちが取り組んでいく市場です。我々は2017年末に国に5000万ドルの投資を約束しています」と同社のマーケティング責任者は語る。

「インド人は甘党であり、インドの市場は大きく成長しているという事実を考えると、ハーシー社の持つ多様なブランドと製品のポートフォリオを持ち込むことで、消費者が弊社のブランドとより深い関係を築いていけると確信しています」

6. ファンド勢のロンドンカカオ先物の売り越し更に高い水準に19か月ぶり更新(7/25)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋の売りポジションがかなり増加している。純売りポジション(=Net Short position)は今週には、前週から更に6,470ロット増やし、合計で17,578ロットに増加したことが、ICE EUROPEの発表しているデータから判明した。

- 純売りポジションは、過去19か月で一番弱気水準(=売り越しが多い)
- 買いポジションの総量は7月21日までで前週より1,313ロット減少して、13,400ロットとなった。買いポジションの総数量では、過去2年で一番低い水準になっている。
- 売りポジションの総量は7月14日までで前週より5,157ロット増加して、30,978ロットとなった。売りポジションの総量は、過去19か月で最大数値となっている。

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp